

中北.com

地域教育情報紙

中北教育事務所
教育支援スタッフ



チュウホク ドット コム

TEL 0551-23-3046
FAX 0551-23-3013

中北の地域社会 (community)の心の交流 (communication)をめざします



～第5号の見出し～

- ◆中学校へようこそ!! ～泉中学校「泉小学校6年生児童対象 授業・部活動見学」より～
- ◆対話力を育てる ～須玉小学校「第18回きらきら学習交流会」にて～
- ◆つながりが生み出す安心感
～若草中学校・若草小学校・若草南小学校「合同地域貢献活動」にて～
- ◆#中北バトン 南アルプス警察署 生活安全課 穴水 卓
- ◆制服の残反て小物を作ろう ～甲府南高校「家庭基礎」の授業より～

中学校へようこそ!!

～泉中学校「泉小学校6年生児童対象
授業・部活動見学」より～

生徒会本部の皆さん



11月1日、泉中学校(有泉透校長)において、泉小学校(石川博之校長)6年生児童を対象にした授業・部活動見学が実施されました。この行事は、例年は、2月に保護者合同で行っていましたが、今年度は、11月は児童のみ、2月は保護者のみと2回に分けて行われます。このような形にしたのは、有泉校長先生によれば、「児童と保護者双方に必要な話をきちんと伝えて交流を図ること」、「天候(特に雪)の影響を受けることなく、児童が授業や部活動を見学できること」などがねらいとのこと。春に新入生を迎える側として、児童にも保護者にも丁寧に向き合いたいという強い思いを感じました。

はじめに体育館で、生徒会長の樋川美桜さん、副会長の萩原裕大さん、千野天寧さんによる学校紹介が行われました。樋川さんの、「不安を軽減できるように。中学生活を楽しみにしてもらえるように」という事前の意気込み通り、スクリーンに映し出された数多くの写真とわかりやすい説明によって、児童たちの表情も徐々に柔らかくなっていきました。終了後、3人に話を聞くと、「(こちらの思いは)伝わったと思う」(樋川さん)、「(自分がした部活動の説明が)参考になってくれればいいな」(萩原さん)、「(このあと児童が見に来るので)授業や部活動を頑張りたい」(千野さん)との言葉が返ってきました。有泉校長先生同様、新入生を思いやる優しい気持ちが伝わってきました。

授業見学では、1年国語、2年保健体育、3年社会を見学しました。泉小学校の浅川愛武さんは、3年社会の授業が印象に残ったそうで、「『石破さんはなぜ期待されているのか』『自分なら何大臣になりたいか』という問いが面白かった。自分でも考えてみた。(中学校生活が)楽しみになった」と語ってくれました。



吹奏楽部の活動の様子

最後の部活動見学の際、児童の一人が校庭を全速力で駆けるのが目に飛び込んできました。おそらくこれは、心身がリラックス状態にあるからこそその行動だと考えられます。

異校種間における連携行事の重要性を再認識することができました。



3年社会の授業の様子

対話力を育てる

～須玉小学校「第18回きらきら学習交流会」にて～

11月2日、須玉小学校(皆川賢司校長)で「きらきら学習交流会」が行われました。この行事は、児童が、「生活科」や「総合的な学習の時間」で取り組んできた学習の成果を保護者や地域の方に向けて発表するというものです。当日は、朝から冷たい雨が降っていましたが、校舎内は、児童たちや集まった保護者、地域の方で活気にあふれていました。

発表テーマは、環境問題や福祉、食料、身の回りの自然、地域についてなど、多岐に渡っています。発表方法についても、手作りの紙芝居や小道具を使ったり、クイズ形式を取り入れたり聞き手の反応や興味を引き出す工夫

が随所に見られました。

印象的だったのは、4年生の「介助犬・盲導犬について」の発表時、学習過程で生じた児童の問題意識が、聞き手にも投げかけられ、その問題について、皆で「対話」する機会があったことです。校長先生は、「はじめの会」で、保護者と地域の方に対し、次のように述べていました。

「子どもたちが生きる未来は、色々な国の人と交流し一緒に活動する時代、正しい答えがどんどん変化する時代です。そんな未来を生き抜くためには、自分の考えをしっかりと相手に伝えるとともに、多くの人々が納得する答え

を見つけるために対話することが不可欠になります。今日は、子どもたちの対話する力を鍛えるために、発表を聞くだけでなく、子どもたちに質問してください。また、意見や考えを伝えてください」

まさに校長先生の思いが実現した瞬間でした。



全校合唱の様子

1年生から6年生まで全員に活躍の場面があり、一人ひとりが文字通り「きらきら」輝く学習交流会でした。



みそなめ地蔵についての発表の様子



介助犬・盲導犬についての発表の様子

つながりが生み出す安心感

～若草中学校・若草小学校・若草南小学校「合同地域貢献活動」にて～



若草中生徒と若草小児童

12月11日、若草中学校(浅利進校長)、若草小学校(時田直人校長)、若草南小学校(小林正彦校長)が合同で行っている地域貢献活動取材しました。この地域貢献活動は、地域の美化を図る小中連携教育活動の一つで、若草中学校生徒会本部が中心となって動いています。参加するのは、中学校の方では1・2年生、小学校の方では5・6年生です。まず中学生が徒歩や自転車で両小学校まで赴き、顔合わせとはじめの会をします。その後、16か所ある分担場所に移動し、活動がスタートしました。

季節柄、大量の落ち葉があるので、それらを集める作業のほか、陶器やガラスの細かな破片、電池、釘などを拾う作業も行いました。作業は、中学生と小学生とが声をかけ合いながら手際よく進み、辺りには、落ち葉でいっぱいになったビニールの大袋などがあつという間にたまっていきました。



陶器の破片

作業後、若草中学校生徒会長の鈴木礼乃さんに話を聞きました。

生徒会長の

鈴木礼乃さん→

◎この活動の目的はなんですか？

——普段自分たちが生活している地域に感謝の気持ちを持ち、ごみ拾いや清掃活動を通して地域に貢献しようという精神を養うことと、若草中学校は数年前から小中一貫校になったので、小中連携教育の活動の一環として小学生と中学生の交流を深めることです。



若草中生徒と若草南小児童

◎実際活動してみようですか？

——私は、もともと人見知りなのですが、中学校はこんなところだよ、みたいな話を小学生としながら地域の清掃もできるのはすごく楽しいです。

◎小学生の立場でこの活動に参加したときはどのようなことを思っていましたか？

——私は(中学校に対して)不安な気持ちが強かったのですが、中学生が先生たちと楽しくしゃべっていたり、優しく話しかけてくれたりしているのを見て、安心感を持つことができました。

3校の間では、ほかにも合唱交流会や合同あいさつ運動、職員の合同校内研などが行われているそうです。共に暮らす地域を拠点とした小中のつながりが安心感を醸成し、その安心感が、子どもたちの意欲やチャレンジ精神の源泉にもなっていく——今後も小中合同活動が活発に行われることを願います。



ビニール袋にギュウギュウの落ち葉

#中北バトン

様々な立場から、子どもたちへの思い、地域への思いを語っていただきます。

被害者、犯罪者にさせないために

南アルプス警察署 生活安全課 穴水 卓

南アルプス警察署生活安全課は、「電話詐欺被害防止」「子供と女性を守る対策」「DVやストーカー、男女間トラブルなど重大事案に発展するおそれのある事案」「児童虐待をはじめとした虐待事案」「少年事件捜査」など犯罪抑止活動や各種許認可業務、事件捜査を担当しています。また、警察と言えば、“捜査”というイメージが強いかもかもしれませんが、子供たちが非行や犯罪に巻き込まれないための防犯活動も行っています。



その中で近年、子供たちが巻き込まれる事件・事故や困り事相談として、インターネット利用時におけるトラブルや登下校時等における声かけ事案が多くあります。インターネットの普及や子供のスマートフォンの所有率が高くなったことで、「個人情報の流出」「不適切な書き込み」「ネットいじめ」「誘い出しによる性的被害」「ネット依存」など、子供を巻き込む様々なネット被害が大きな社会問題となっており、これらにはラインやインスタグラムなどといったSNSが発端になっていることが多く見受けられます。このような事件やトラブルに巻き込まれないために、当署管内の小中学校、高校において、声かけ等事案に直面した時の対応要領やSNSの正しい利用方法、薬物乱用防止教室などの防犯教室を行っております。

子供たちが犯罪被害に遭わないように、そして犯罪者にならないようにするための活動を、これからもより一層推進していきたいと思っております。

制服の残反で小物を作ろう

～甲府南高校「家庭基礎」の授業より～

甲府南高校（篠原健校長）では、「家庭基礎」の「衣生活をつくる」の単元において、制服を作る際に発生する残反で小物を制作するという「SDGs」と結び付けた取り組みを行っています。11月28日、完成した小物の評価や単元の振り返りを行うと聞き、1年2組の授業を訪ねました。被服室に入ると、1班3～4人ずつ、計10班に分かれた生徒たちが、作業机を前にして座っていました。各机



制服の残反

評価共有時の様子



の上には「ぬいぐるみ」や「ポシェット」、「アイマスク」などの完成品が置かれています。担当の津島真奈美教諭によれば、何を作るか、どのように進めるかはお任せで、各班、さまざまな課題を乗り越える中で小物を完成させ、この日を迎えたのだそうです。津島先生の声かけて評価が始まりました。評価は班ごとに行います。完成品を触ったりしながら

話し合い、班の代表者が、端末に配信されたForms回答シートに評価内容を打ち込んでいきます。和やかな雰囲気の中、「かわいい!」とか「使いたい!」などの言葉がたくさん聞こえてきました。評価が一通り終わると、次は共有の時間です。評価の集計結果が大型テレビに映し出され、各班に寄せられた評価コメントを津島先生がテンポよく読み上げていきました。自分たちの番が回ってきたときの少し緊張した面持ち、高評価の言葉をもらえたときの笑顔など、生徒たちの素直な反応がとても印象に残りました。その後、単元の振り返りを個々に



マチのついたポシェット

Formsに入力しました。「この被服実習でどのようなことを学んだか」という問いに対する回答がすばらしかったのでいくつか紹介します。

「100均で何でも買ってしまうこの時代に自分で作ることの大切さを知ることができた」

「余ったものから物を作れることを知った。余ったものに対する目のつけ方が変わった」

これらを読むと、この授業の目標「古着や余り布の有効活用について考察し、持続可能な衣生活の充実や向上を目指す」が見事に達成されたことがわかります。

また、こんな回答もありました。

「班員と都合を合わせる難しさと中でも進めるための工夫を考えられた」

協働的な学習には、知識の獲得にとどまらない深い学びがあるのだということに改めて実感できるよい機会となりました。



ぬいぐるみ



～紙面を飾ってみませんか～

地域教育情報紙『中北.com』は、年6回、奇数月に発行し、中北地区500か所以上に配付しています。学校や地域、諸団体での様々な取り組みをぜひ取材させてください。お問い合わせは下記まで、お気軽にお声がけください。



令和6年度『中北.com』No.5 編集・発行 中北教育事務所 担当 内藤 賢・望月 亜由
〒407-0024 韮崎市本町4-2-4 電話 0551-23-3046 FAX 0551-23-3013